

<h1>そだて</h1> <p>第272号</p>	<p>小千谷市 青少年育成センター</p>	<p>〒947-0031 小千谷市土川1丁目5番53号 Tel 0258-82-6750 Fax 0258-82-6750 相談専用電話 82-6771 e-mail: s-center@city.ojiya.niigata.jp URL http://www.city.ojiya.niigata.jp/</p>
---------------------------	---------------------------	---

ミュージック&ダンス

NPO 法人 横町屋台人形巫女爺保存会
理事長 渡邊 浩



人々は昔から心地よい音楽を聴くと歌ったり踊ったり、楽しんできました。今もテレビのスイッチを押せばどこかの番組で放送されていて、大人も子供もそれを真似て歌ったり踊ったりしています。

今から250年も前に小千谷の横町と言う町内の宿屋さんに泊まった傀儡師（操り人形を面白おかしく躍らせて旅をしながら生計を立てている人）が宿賃の不足分として老人人形の頭かしらを置いて行ったそうです。

同じ町内の若い衆がその頭に着物を着せ、手を付けて、歌・囃子に合わせ踊ったのが面白く楽しい娯楽となり、段々と調子が出てくるとそれを人々に披露したくなり、女性人形の巫女みこを置き、「ミコとジサ」としてお祭りに参加するようになったようです。

それを見た近隣の人たちも「これは面白い」、と自分たちの地域文化に合わせながら伝承してきたのが今では12地域（後述）に残されています。

「横町のミッコンジサ」と言われて戊辰の戦禍を越え、第1・2次の世界大戦を越え、中越地震にも耐えて、もっと未来に継承されるように組織を保存会・後援会と強化して活動し、250年も継続しています。

昭和には小千谷市伝統無形文化財第1号として認定を受け、その後、平成には新潟県指定無形民俗文化財としての認定を近隣12団体（小千谷市は横町・千谷・三仏生・片貝、長岡市は岩田・水梨・河内・十楽寺・親沢・飯塚・不動沢・太郎丸）で受けています。

毎年、二荒神社祭礼（7月の海の日を最終日として3日間）には、おまつり広場を巫女爺奉納行列が練り歩き、踊りが二荒神社に奉納されます。巫女の気品ある踊りと爺さんのユーモラスな踊りを、是非ご覧いただきお楽しみ下さい。

しかし、会員に小中学生や女子のメンバーが少ないのがとても心配で、これからは若い世代が一緒になって伝承できるような環境づくりが大切ですし、駅伝競走と同じでランナーがいて、タスキを繋がないければそこでレースは終わります。地域の絆である「ミッコンジサ」のタスキをしっかりと受け取る人を育てていくことに力を尽くしていこうと思います。

越後小千谷 牛の角突き

小千谷闘牛振興協議会
会長 間野 泉一

国の重要無形民俗文化財に指定されている「越後小千谷 牛の角突き」は、数百年以上の歴史をもっています。かつて岩手県南部地方から商人が鉄を売りに来た際に、鉄を運んだ牛も売っていったことで、「牛の角突き」が始まったとも言われています。その後、村の神社の祭礼に合わせて「角突き」が行われ、神事として長年受け継がれてきました。

全国的に伝統行事が後継者不足に悩んでいる中、当協議会には80名の会員と40頭の角突き牛が登録されています。昔、牛持ちの多くは、集落の長や旦那様と呼ばれる富裕層でしたが、協議会の働きかけにより現在は、企業や若い人も牛持ちになっています。若い人は、牛持ちであると同時に勢子せこでもあります。

小千谷の角突きは、すべての取組を「引き分け」とします。これは、勝敗をつけることで負けた牛が角突きへの意欲をなくすことを防ぐためです。両牛がもてる力と技を駆使して戦っている絶妙なタイミングで勢子長が合図を出すと、勢子は牛の後ろ足に綱をかけ、二手に分かれて綱を引っ張り、猛り狂っている牛の急所である鼻を素手でつかみ、牛をおとなしくさせます。この一連の勇猛果敢な勢子たちと牛との戦いがあって、「引き分け」になります。会場は、両牛の熱戦もさることながら、勢子たちの勇気に拍手喝采となるのです。勢子の活躍は最大の魅力です。そんな勢子に憧れて、多くの若者が「角突き」を継承しようとしています。

また、東山小学校の「牛太郎ぎゅうたろう」の存在も「角突き」の継承に大きな力を発揮しています。「牛太郎」は、日本で唯一学校が飼っている角突き牛です。「総合的な学習の時間」の一環として飼育を始めました。一代目「牛太郎」と過ごした子どもの中からは牛持ち、勢子になった若者もいます。現在の二代目「牛太郎」も、各種イベントに参加し、多くの方が「角突き」への支援をしてくださっています。

牛の世話は、一日たりとも怠るわけにはいきません。家族同様、心を通わせて牛の世話をする「牛飼い」「牛持ち」がいて、牛の心を読んで命がけで戦う「勢子」がいて、熱戦を見守る「観客」がいて、会場の準備をする人がいて、「角突き」は成り立っています。一人ではできないことでも、大勢の力が集まって続けていけることがたくさんあります。特に若い人の力は無限です。よき伝統を守り、やりたいことにどんどん挑戦して行ってほしいと願います。



【青少年育成センターより～】

あけまして おめでとうございます。今年も親しみある相談機関として「青少年育成センター」をよろしくお願い致します。

